

2011年10月26日

Sail for Smiles 4th Plan

銚子マリーナ復興支援＜小学生体験乗船＞報告

Sail for Smiles 4th Plan は「銚子マリーナ復興支援」としての＜銚子マリーナにおける小学生体験乗船＞を10月15日（土）に開催し、実施協力を行いました。

■銚子マリーナ（千葉県）にも甚大な被害をもたらせた震災

今回の震災は東北を中心に甚大な被害をもたらせました。東北地方の被害が甚大なため以外に見落とされがちですが、千葉県の沿岸地域にも大きな被害を与えました。我々が遊び場の拠点とするマリーナやハーバーは沿岸部にあり、千葉県の太平洋に面したマリーナやハーバーも大きな被害を被りました。

関東の東端にある銚子市（千葉県）は太平洋に突き出た半島状の先端に位置し、銚子マリーナは犬吠埼近くとなります。銚子マリーナにも巨大津波は到達し、被害後の建物の状況を見ると津波の高さは建物の2階にもおよぶ高さと思われる。

震災前銚子マリーナには陸置き、水置き合わせて165艇のヨット・モーターボートが保管されていました（ディンギーを含めると180艇超）。震災により全ての艇が被害を被り、多くの艇が沈没・流出してしまいました。ハーバー職員の懸命な努力により、どうにか引き上げられて残った艇はただ52艇。この52艇も全て被害を受けていて、修理無くして乗艇できる状態ではありません。

■体験乗船開催のきっかけ

銚子マリーナでは、マリーナの棧橋は全て無くなり、マリーナの建物は全て破壊され、保管艇も修理を行っている状態でマリーナとしての機能回復には長い期間が必要な状態です。そんな中でも、事務所建物や修理工場などの最低限の復旧をし、マリーナ内の海底掃除を行い復興への歩みを少しずつ進めています。

そんな状態を、たまたま聞きつけた Sail for Smiles スタッフが何か協力することはないかと相談したところ、毎年銚子マリーナ保管艇に協力を願い銚子市民を招いて実施している体験乗船イベントを行いたい。が銚子マリーナの保管艇に今年は協力願えない状態であるとのこと。そこで、この体験乗船イベントの実施協力を行うこととしました。

■小学生を招待

毎年行っている体験乗船は7月の海の日に、銚子市民を対象に募集して実施していましたが、今年は募集を取りまとめることもままならない状態ため、銚子市立海上（うなかみ）小学校5年生に絞っての体験乗船としました。この小学生達は今年3月に遠足で銚子マリーナを来訪していて、その際次回はクルーザーに乗って海を体験してもらう約束をしていた小学生達です。

■悪天候が続き・・・

当初、この体験乗船は9月3日（土）に予定していましたが、台風12号が関東地方直撃のためやむなく中止延期とし、10月15日（土）に開催することとしました。

しかし・・・10月15日（土）も前線通過に伴う南風が強烈に吹きまくる悪天候に再び見舞われることとなるのでした。体験乗船に使用する艇は三浦半島からの回航となり、銚子マリーナまでの距離は100マイルを超えます。そのためヨット2艇とモーターボート1艇はすでに前週に回航済みのため、午後から風が弱まるという天気予報を微かな望みにかけることとしました。

銚子マリーナにたどり着くと、天気予報通りハーバー内の海面でもさざ波が立つほどの強風が吹き続けていました。ハーバー内でも体験乗船するのは難しく、回航済みの艇に増し舳いが必要なほどでした。体験乗船後に開催予定だったバーベキューを先に実施することに予定変更して、風雨が落ち着くことを願うばかりでした。

■瓦礫と風雨の中の笑顔

銚子マリーナの現状は、マリーナ内の海面の瓦礫は撤去されたものの、ヤードの片隅には廃船となった艇の残骸や棧橋など瓦礫が山積みとなり、クラブハウスやディンギーハウスといった建物は全てのガラスが割れ内部の物は全て流された状態のまま、ヤード周囲の地面も剥がれたままと悲惨な物でした。

イベントに先立ち、体験乗船イベントの主催者（株）銚子マリーナの清水支配人より本イベントに協力頂いた会社、個人に感謝状の贈呈が行われました。体験乗船使用の艇の提供者やライフジャケット、酔い止めバンドなどの乗船用備品やドラム缶ベースのバーベキューセット、バーベキューの食材や飲料などなど多くの会社や個人のご協力を得ました（詳細は後述）。

また、例年開催の体験乗船イベントは銚子マリーナ保管艇が協力していましたが、今回は協力したくても艇を失ったり艇の修理中のため協力を断念する中、銚子マリーナ保管艇＜Blue Chip＞の小林章オーナーが体験乗船のために艇を出して頂きました。またバーベキュー懇親会のために＜Blue Chip＞クルーの布施卓也氏からは果物、艇＜兆星＞の網谷征己オーナーからはイカの差し入れをいただきました。

小林氏と布施氏も加わり、雨をどうにかしのげる唯一の場所ディンギーハウス内でバーベキューの準備を開始。屋根はある物の窓が割れていて、時折横殴りの雨が部屋の中央くらいまで吹き込む状態でした。午後1時になり、ご招待した小学生36名と引率の先生と父兄（総勢50名余り）が到着し、イベントの開始となりました。

冒頭、新行内ハーバースタッフから今回のイベントの主旨説明があり、続いて Sail for Smiles を代表して新田から協力の意図を説明いたしました。体験乗船にはまだまだ難しい強風の中、ひとまず寄付頂いた真新しいライフジャケットを着用して乗艇予定だった艇の前で記念撮影。子供達はまだ緊張気味の顔色です。

記念撮影後は、壊れたまま残っていたディンギーの傍らにて取材に到着していた舵社の安藤氏による即興ヨット講座が開かれ、徐々に子供達の顔に笑顔がこぼれてきました。準備が整い父兄も交えてバーベキュー開始。ソーセージに焼きそば、こんにゃく煮、イカの丸焼きが次々に作られ、子供達の満面の笑みがあふれてきました。

2時間余りバーベキューが続きましたが結局風は弱まることなく、子供達の体験乗船実施は残念ながら断念しました。ただし、この強風を体験してもらうべく江畑雅充校長先生をサポート用のインフレーターボート（ゴムボート）に乗せて、ハーバー内を1周乗船のみが実施されました。

■銚子マリーナの復興

バーベキュー会場に戻り、お菓子や差し入れられた果物も配られ持ちきれないほどのお土産を抱えて、最後に小学生からのお礼の言葉を持ってイベントは締めくくられました。

今回は天候に恵まれず体験乗船の実施ができなかったことは、大変残念なことでした。今回の体験乗船は、直接的に復興に結びつくイベントではありません。しかしながら瓦礫に囲まれた中でも純真な子供達の笑顔は、銚子マリーナの復興を目指す人々に多くの勇気を与えたのではないかと思います。

このイベントは（株）銚子マリーナの主催で実施されました。実施運営も銚子マリーナの人々（ハーバースタッフと保管艇のオーナーやクルー）で実施されることが本来でしょう。しかしながら、今回は実施運営にかかる物や人が足りていなかったため、Sail for Smiles がお手伝いしたにすぎません。一刻も早く本来の形を取り戻すことを心から願うばかりです。

最後になりましたが、今回のイベントにご協力頂いた会社や個人の方々にこの場を借りてお礼申し上げます。特に開催当日、銚子マリーナまで来て様々な準備から後片付けを行ってくれた方々に心よりお礼申し上げます。

今回のイベント写した写真は、Sail for Smiles フェイスブックをご覧ください。

<http://www.facebook.com/pages/Sail-for-Smiles/222921157745225>

【協力いただいた会社・個人】

- ・ 順不同
- ・ <>内寄贈品、協力内容。<>記載無き含め全ての方々から人的協力。

■ 銚子マリーナ保管艇の方々

株式会社兆星（網谷征己オーナー）<バーベキュー食材>

布施卓也（Blue Chipクルー）<バーベキュー食材>

ヨットBlue Chip（小林 章）<体験乗船艇借用>

■ 銚子マリーナ以外の方々

三崎観光株式会社油壺京急マリーナ<棧橋寄贈・体験乗船艇借用>

株式会社マリーナヴェラシス<棧橋係留設備寄贈>

アクア船舶鑑定株式会社<ライフジャケット寄贈・体験乗船艇3艇借用・その他>

コンノマリン<ゴムボート寄贈>

鈴木ヨットアーティスト<ゴムボート寄贈>

澤村興業<バーベキューセット寄贈>

株式会社リビエラリゾート<体験乗船艇借用・ソフトドリンク>

神奈川トヨタ商事株式会社マリン部<ソフトドリンク>

トヨタ自動車株式会社マリン&ユニット事業部・マリン販売室東日本営業所
<酔い止めバンド・クリップライト>

株式会社カズ・マリンプロダクツ<ライフジャケットの割引>

株式会社丸星製麺<バーベキュー食材>

株式会社総合保険センター

川崎塗装

スプラッシュ

宮崎舟艇塗装

ウルマーセイルズジャパン株式会社

川口マリン

大宮マリン

佐々木

モーケン・富澤

以上